



学校教育目標

学びあい

豊かな心で

未来をひらく生徒

初雁中の目指す姿

◇目指す学校像 なりたい自分にする学校

◇目指す生徒像 なりたい自分になる生徒

◇目指す教職員像 「なりたい」を教え導く教職員

読書の習慣化がもたらすもの～朝の読書活動にふれて～

校長 矢部智史

活字離れが様々な場面で指摘されている今日、学校では「読書の大切さ」や「読書活動の有効性」を認めながら、毎日10分間の朝読書に取り組んでいます。市の教育行政の重点施策の中にも、豊かな心を育む教育の推進の中に、読書活動の充実を掲げています。生徒たちは朝読書の時間になるといろいろな本を机に出し、静かに読んでいるのですが、この中に真の読書好きが果たしてどれくらいいるのだろうかと思いつつ、朝の読書活動を眺めています。

私自身、幼少の頃から読書が好きでした。学校の図書室にある本を、物語を中心に友達と競うように片っ端から読みあさりました。家では、やっと親から買ってもらった昆虫図鑑を片手に田畑や林を巡り、捕獲した昆虫を図鑑と見比べては一喜一憂の繰り返しで、ぼろぼろになるまで図鑑と生活を共にしました。

読書の最大の魅力は「疑似体験できること」にあると私は考えています。本に触れることにより、筆者や登場人物の体験を自分の物にできることが心の成長や思考力・判断力の伸長に大きく作用すると考えます。例えば、人と会話をすることが苦手な人と関わった経験がない人でも、本の登場人物と同化することで、様々な人と「会話」し、相手の考えを「知る」疑似体験が可能です。そのことが、コミュニケーション能力を高めることにもつながるのではないかと私は考えます。

読書の有用性は、医学的な見地からも実証されています。その1つが、脳の活性化です。読書中の人の脳をMRIでスキャンしたところ、本の中の音や景色、においや味を想像しただけで、脳が活性化し、新たな神経回路が生まれたという報告があります。また、わずか6分間の読書により、ストレスが3分の2以上軽減されるそうです。さらに、情報処理能力や記憶力のアップも医学的に実証されています。アルツハイマーの予防にも良いそうです。

これほど人間に大きな影響を及ぼす可能性を秘めた「読書活動」を生徒が主体的にとらえ、実行できるとよいのですが、生徒からは「漫画は好きだが本は読まない」という声が圧倒的に多く聞かれる傾向が見受けられます。「漫画」いいですね！手軽にパッと読めて、感情移入しやすい作画の効果と、端的で分かりやすい吹き出しの会話文。私も大好きです。友情の大切さや努力することの美しさ等、心を大きく育て勇気づけてくれる作品も多いと思います。では、漫画本といわゆる「本」とは何が違うのでしょうか？1つは文章表現が「話し言葉」と「書き言葉」の違い、もう1つは一見して分かる漫画の特性と、文章をじっくり読まなければ内容が分からない「本」との違いが、いわゆる「想像力」「思考力」を形成する上での大きな違いになっているのかもしれない。読書の習慣化によって身に付くスキルについて、今一度考えたいものです。

